



卒業式を控えた湊小学校6年生32人のオペレッタによる第12回議場コンサートが、3月定例会の一般質問の休憩中に開催されました。「ふるさと」の調べにのせて語られたふるさと上総湊への想いと、上総湊海岸で集めた流木を打楽器とした力強い音色にのせたメッセージを伝えてくれました。ふるさと上総湊の「現在」から「未来」への熱い想いとメッセージは、私たちの心に強い印象として残るものでした。

富津絶景¹⁷



「富津岬の鯉のぼり」

写真提供 君津市・渡邊 勇さん

富津市内には、素晴らしいスポットがあります。こっそり独り占めせず、歓びを分けて下さい。皆様のご応募をお待ちしております。
(上記編集先まで)

予算審査特別委員会報告	2・3P
3月定例会・委員会報告	4・5P
代表質問	6・7P
個人質問	8～10P
企業誘致対策特別委員会報告	11P
議会広報委員会報告	11P
トピックス・定例会日程	12P

平成25年度予算が決まりました

予算書・予算に関する説明書・

附属資料をもとに議会開会中に設置された予算審査特別委員会（9人）において、2日間にわたり平成25年度予算に示された個別事業の内容や金額の算出根拠などの質問に加え、将来の施策展開や市政運営の考え方から総論的な内容にまで及ぶ幅広い質問を行いながら審査を進めました。

その結果、一般会計（155億7千万円）と3つの特別会計（1億17億1741万円）、2つの企業会計（25億4920万3千円）を合わせ、総額298億3661万3千円の予算が決まりました。審査の中で質問のあったさまざまな項目や、平成25年度の事業のうち主なものをここで紹介します。

委員長	鈴木 幹雄
副委員長	岩本 朗
委員	永井 庄一郎
委員	岩崎 剛久
委員	松原 和江
委員	佐久間 勇
委員	十川 敬三
委員	平野 政博
委員	平野 英男

歳入のこと

法人市民税均等割

1億2808万1千円

前年度と比較して約56万円増額となった理由は、資本金が1千万円以下で従業員数が50人以下の1号法人が前年度よりも29社増加したことによるものです。

市たばこ税

4億399万3千円

前年度と比較して増額となった理由は、平成25年4月1日から県たばこ税の一部が市へ移譲され、税率が上がることによるものです。

防災のこと

消防自動車等整備事業

4843万9千円

高規格救急自動車1台と消防ポンプ自動車1台を購入します。

地域防災計画修正業務委託料

682万5千円

地域防災計画を修正するための業務を委託します。

くらしのこと

1階窓口カウンターパーテーション設置工事

99万5千円

個人情報の保護を目的として、1階窓口カウンター13ヶ所に仕切り板を設置します。



1階窓口仕切り板を設置して4月8日から窓口業務を行っています。

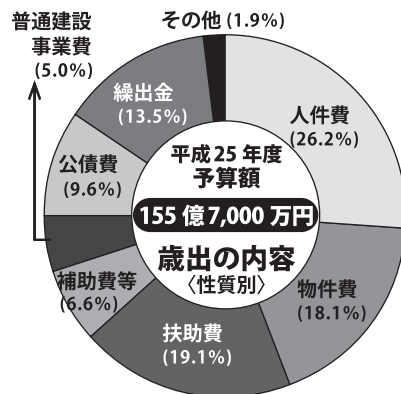
定住奨励金

396万6千円

平成25年度の対象件数は、新築40件、中古住宅10件を見込んでいます。これに加え市内建築業者により施工した場合の加算や中学生以下の同居の加算をあわせた見込額としています。

▼平成25年度予算の内容（性質別）

- 人件費 40億8,550万8千円：議員の報酬、職員の給与など
- 物件費 28億1,469万5千円：消費的性質をもつ経費
- 扶助費 29億6,913万4千円：生活保護や児童手当など
- 補助費等 10億2,564万4千円：負担金、補助金及び交付金など
- 普通建設事業費 7億7,216万1千円：公共施設、公共用施設の新増設の建設事業
- 公債費 14億8,804万2千円：市債の元金・利子や一時借入金の利子を支払う経費
- 繰出金 21億698万1千円：一般会計からの特別会計へ繰り出す費用
- その他 3億783万5千円



◆バス運行関係費

3717万6千円

前年度と比較して約683万円増額となった理由は、平成24年10月1日から路線バス富津市役所線を富津市役所君津駅線に名称変更し、君津駅南口まで延伸したため、25年度では年間を通じての運行経費が加算されたことによるものです。

◆大貫駅駐輪場整備工事

5180万円

国の交付金を活用して行う庁舎及び大貫駅周辺地域の都市再生整備計画事業の一環として、大貫駅駐輪場の整備を行います。



大貫駅駐輪場に屋根が取り付けられます。

◆バスターミナル整備事業

1450万円

バスターミナルを整備するための詳細設計業務に加え、路線・用地測量業務を委託します。

◆富津臨海陸上競技場改修工事

3000万円

この施設は、3種公認の陸上競技場で、この公認（5年間）を再取得するために必要な改修工事を行います。改修工事の内容は、トラック内の第1コース及び100m走スタート地点などのウレタン張り替え（790㎡）、ライン塗り直し、走路（4940㎡）の洗浄などを行います。



第1コースの改修等が行われる富津臨海陸上競技場

地域振興のこと

◆志駒公衆トイレ新築工事

2128万6千円

公衆トイレの整備予定地は、志駒地区の民地を無償で借り上げる予定です。また、地域に密着した建物とするために木材の利用を考えています。

福祉のこと

◆病後児保育事業補助金

240万円

この事業の内容は、病気やケガの回復まで安静に過ごす必要があるお子さんを仕事などの理由により家庭で保育できないとき、看護師と保育士を保育所に配置して一時的に保育を行うものです。市では、この補助金を富津保育園（民営）に交付することにより、平成25年4月から同園での病後児保育を開始します。

教育のこと

◆特別支援教育指導員報酬

782万5千円

学校生活上の介助や学習指導上の支援を必要とする児童・生徒を支援するために小中学校に配置している指導員を前年度より1人増員し、5人体制にします。

◆指導補助教員報酬

913万7千円

少人数指導などの推進により、学力の定着が遅れ気味の児童・生徒の基礎学力を向上させるために小中学校に配置している教員資格を持つ指導補助教員を前年度より1人増員し、5人体制にします。

▼各会計予算額

会 計 名	平成 25 年度	平成 24 年度	増 減 額	対前年増減率
一 般 会 計	155 億 7,000 万円	168 億円	－12 億 3,000 万円	－7.3%
特別会計				
国民健康保険事業特別会計	69 億 9,000 万円	70 億 8,000 万円	－9,000 万円	－1.3%
後期高齢者医療特別会計	4 億 4,577 万 2 千円	4 億 5,193 万 9 千円	－616 万 7 千円	－1.4%
介護保険事業特別会計	42 億 8,163 万 8 千円	39 億 1,667 万 4 千円	3 億 6,496 万 4 千円	9.3%
小 計	117 億 1,741 万円	114 億 4,861 万 3 千円	2 億 6,879 万 7 千円	2.3%
水 道 事 業 会 計	25 億 4,689 万 3 千円	23 億 8,403 万 5 千円	1 億 6,285 万 8 千円	6.8%
温泉供給事業特別会計	231 万円	231 万 1 千円	－1 千円	0.0%
合 計	298 億 3,661 万 3 千円	306 億 3,495 万 9 千円	－7 億 9,834 万 6 千円	－2.6%

3月 定例会

◆ 条 例

▼市長・副市長と教育長の給与引き下げが延長されました。

今後の厳しい財政状況に鑑み、市長自らの意志により引き下げられていた給与の特例的な措置が4年間延長されました。これにより年間約522万円の人件費削減となります。

▼君津富津広域下水道組合負担金基金条例の制定

新富埋め立て地区における県企業庁の事業終息に伴い、今後の下水道組合への負担金として4億2千万円を一括受領しました。この負担金を原資として、終末処理場

平成25年第1回定例会は、2月25日から3月25日までの29日間で開催され、発議案3件、議案28件について審議を行いました。ここでは、予算案を除く主なものを報告します。

の建設事業費に充てるため、基金を設置する条例を制定しました。全員の賛成により可決しました。

▼消防防災センターが運用を開始しました。

かねてより市役所の近くで工事を行っていた「富津市消防防災センター」が完成し4月1日から運用を始めています。

今まで小久保にあった消防本部と消防署本署、西川にあった富津出張所を統合し、防災備蓄倉庫や訓練場などを兼ね備えた施設で市民の安全と安心を守ります。



最新の消防指令端末装置が設置されています。

▼富津市指定密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の制定

第1次地方分権一括法などの施行に伴い、要介護1から要介護5までと認定された市民だけに対して、介護サービスを提供する事業者の指定に関する基準等を定める条例を制定しました。

全員の賛成により可決しました。なお、市ではサービスの質の向上と所得の低い人の入所に配慮する観点から、次のような独自の基準を設けました。

▽市の独自基準

サービスの質の向上を図る観点から、入居定員又は入所定員29人以下の有料老人ホーム又は特別養護老人ホームでは、週2回以上入浴させることを原則としました。【国の基準では、週2回からだをタオルなどでもふいてきれいにするだけでも可能】所得の低い人の入所に配慮する観点から、従来型の特別養護老人ホーム（入居定員29人以下）については、4人以下の多床室の設置も可能としました。【国の基準では、居室定員は1人】災害等非常時の安全に配慮する観点から、特別養護老人ホーム（入居定員29人以下）の廊下

幅を例外なく、片廊下の幅1.5m以上、中廊下の幅1.8m以上としました。【国の基準では、避難スペースを設けることによってこれらを下回することは可能】



▼市道路線の認定と廃止

市では、道路台帳の整備を順次進めています。今回の認定6路線は、峰上地区ほ場整備事業により整備され、すでに利用されている道路です。

全員の賛成により可決しました。

▽認定路線 くぬぎの下越路線・

田中坂下線・大田和田中線・田

中迎ノ台線・釜淵炭焼線・梨ノ

木中原線

▽廃止路線 岩本線

◆ 補正予算

▼一般会計補正予算

歳出補正予算の主な内容は、国の補正予算に伴う国庫補助金の活用により平成25年度に実施を予定

していた事業（大貫小学校教室棟、湊小学校屋内運動場、佐貫・天羽中学校の各技術室棟の耐震補強工事、トンネル等道路構造物点検及び市道舗装修繕工事）の予算を前倒しして計上するなどの補正を行った結果、3億3681万1千円が増額され、補正後の予算額は174億3310万8千円となります。

なお、歳入補正予算は、市税や自動車取得税交付金などを減額し、国庫支出金や県支出金などを増額するほか、工事の遅延に伴う広域市町村圏事務組合の負担金などや国庫補助金を活用する事業については、翌年度に予算を繰り越して使用できるようにし、賛成多数により可決されました。

歳入予算の主な内容

○市税 △6032万5千円

決算見込みにより市たばこ税以外の市税が減額されました。

○自動車取得税交付金

△1900万円

自動車の消費低迷により減額されました。

○国庫支出金 7656万1千円

生活保護受給者の増加や平成25年度に実施予定としていた事業の予算を前倒しして計上したことにより増額されました。

○県支出金

3億6143万8千円

県企業庁が平成24年度末をもって土地造成事業を終え、従前から同庁が一部負担していた下水道終末処理場建設事業費用を一括負担することなどにより大幅に増額されました。

歳出予算の主な内容

○道路橋梁費 564万7千円

平成25年度に予算を繰り越して、老朽化したトンネル等の点検と老朽化した市道の舗装修繕工事が行われます。



舗装修繕が行われる市道旧県道線

○小学校費（学校管理費）

1億3213万8千円

平成25年度に予算を繰り越して、大貫小学校普通教室棟と湊

小学校屋内運動場の耐震補強工事が行われます。



耐震補強工事が行われる湊小学校屋内運動場

○中学校費（学校管理費）

7626万4千円

平成25年度に予算を繰り越して、佐貫中学校及び天羽中学校の技術室棟の耐震補強工事が行われます。

○都市計画費

3億7018万5千円

従前から県企業庁が一部負担していた下水道終末処理場建設事業費用を一括して支払うことにより、その負担金を君津富津広域下水道組合負担金基金として積み立てます。

○生活保護費

1862万円

生活保護受給者の増加により医療に係る扶助費などが増額さ

れました。（うち、市の負担額は470万7千円）

◆ 人事案件

▼新副市長が誕生しました。

平成18年から副市長として務められていた平野和夫氏の退任に伴い、浜田靖一代議士の政策担当秘書の経歴を持つ高橋恭市氏（大堀在住）が新副市長となることが同意されました。

◆ 議員発議

▼市議会の条例や規則が変わります。

今定例会では、議会からの発議による条例や規則の一部改正に伴う議案を3件提出しました。

主な内容は、本会議での公聴会の開催と参考人の招致が可能となることや、議員が政務のために使うことができる「政務調査費」の名称を「政務活動費」に改め、使い道の透明性をより確保するための規定などを整備しました。

これにより本会議での情報の共有が進むとともに、会派に所属している議員の政務活動費は、会派の政務活動としての使用に限定されるなどの細かい規定が設けられました。

*会派の代表として行う質問が代表質問になります。
代表質問の時間内（質疑応答で150分）であれば、
同じ会派の人が関連質問をすることができます。



代表質問

平成25年度施政方針について

賢政会



石井 志郎
議員

問 一点目、有害鳥獣による被害防止対策は。

市長 以前は猿中心であったが、平成15年頃からイノシシが現れ、近年では鹿、キョンまた小動物ではタヌキ、アライグマ、ハクビシンなどさまざまな鳥獣による被害が増えている。特にイノシシは急速に捕獲数が増え、出没範囲も拡大し、富津地区の一部まで及んでいる状況。対策としては個体を減少させることが重要なことから、平成24年度捕獲許可数を1500頭から2500頭にした。また鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、捕獲おりの購入や地域ぐるみの侵入防止柵の設置を支援し、有害鳥獣による被害防止に努め、農業者の生産意欲の向上と安定した農林業所得の確保に努めたい。

問 有害鳥獣被害の状況は。

経環部長 平成23年度野生鳥獣による農林産物の被害額は、1994万円うちイノシシによる被害額は1564万円、約8割がイノシシによるもの。また平成23年度の捕獲実績は、イノシシ1200頭、猿168頭、鹿114頭、その他アライグマ等小動物が321頭、合計1803頭。平成24年度は12

月末現在でイノシシ2307頭、猿156頭、鹿83頭、その他アライグマ等小動物が435頭、合計2711頭。

問 3戸以上でない電気柵の申請ができなくなった理由は。

経環部長 平成25年度の有害鳥獣被害防止対策事業の電気柵については、今まで県の補助金を活用していた。県の補助金は個別でも補助金が出る制度であったが、この補助金がなくなるため、平成25年度から国の補助金を活用したい。国の補助金要綱では、以前から3戸以上の受益戸数というものがあり、連続して防護柵の共同設置ができることを基本としている。市としても、以前からできるだけ広



宝竜寺地区に設置されているイノシシ捕獲用おり

い地域での設置を推奨していたが、なかなかできないということで、個別でもできる県の補助金制度を活用していた。

問 イノシシが通学路等に利用されている道路にも出没しているが。

教育長 今年度、児童・生徒が登下校中にイノシシを見たという報告を竹岡地区、佐貫地区から受けている。今のところ事故には至っていない状況。学校では登下校時だけでなく、イノシシと遭遇した場合には、近づかない、刺激しない、また近くの家や大人に助けを求める等の指導をしている。既に保護者等が登下校を見守っている例もあるが、今後危機が高まるような場合には、見守りボランティアの方や関係機関とさらに連携を強めて、事故防止に努めたい。

問 三点目、浅間山砂利採取跡地の今後の土地利用は。

市長 去る2月19日に、太陽光発電事業者と共同記者会見を実施し、メガソーラー事業を発表した。また、現在並行して館山道四車線化に伴い、当地周辺にバスストップを設置すべく、国、県、NEXCO等の関係機関と実務レベルの勉強会を開催している。今後は、バス事業者、地元代表等も含めた協議会を発足させ、国、県等の指導を仰ぎながら、高速自動車国道法

に定める整備計画を変更すべく協議、調整を進めていく。この二つの事業を呼び水として、太陽光発電事業者を含めた土地所有企業と、観光施設や集客施設等を誘致すべく、検討を進めていく。

問 今後の土地利用に富津市が期待するところは。

企財部長 主に固定資産税の増収のほか、企業では見学台などを設置したいということで、この分の集客が見込まれる。今後の跡地全体の土地利用につながる呼び水として当然期待している。

問 今後、進出企業を含めてどのように検討するのか。

企財部長 今後、協議会をつくる中で土地全体の集客施設あるいは観光に向けたものについても話し合っていきたい。



いよいよ始まった浅間山メガソーラー事業、(株)富津ソーラー起工式

施政方針に掲げる「まちづくり」の取り組みについて

賢政会



佐久間 勇 議員

問 観光振興、農林水産業の振興と結びつけた市のイメージアップ戦略を伺いたい。

市長 魅力ある観光地や農林水産業の振興策として、地域の特性を生かしたイベントの開催や宿泊・滞在型観光を推進したい。また、農林水産業については、6次産業化を推進し、安定した所得確保、生産意欲の向上を図っていく。

問 多角経営、6次産業化に向かつていく取り組みや働きかけはあるか。

経環部長 ハッサクや苺ジャム、味噌や太巻き寿司等の加工販売はあるが、6次産業化法に基づく認定事業者はまだいない。今後、県と連携し協力したい。

問 おもてなしキャラクター「ふつつん」はどんなグッズに利用され、今後どう活用していくのか。

企財部長 衣料品やバッジ、ストラップ等に活用している。出演頻度が多く、握手ができない改良点を含め2体目を考えたい。今後も各種観光キャンペーン等に参加し、イメージアップにつなげていく。

問 「ふつつん」のご当地ナンバーの考えと、近隣市の状況は。

市民部長 君津市は23年度、木更

津市が24年度から導入済み、袖ヶ浦市は導入する予定はない。富津市も現状では考えていない。



富津市のイメージアップに活躍する「ふつつん」

問 「安心して暮らしやすいまちづくり」を進めていくうえで、緊急情報は市民のみならず、観光客や来訪者にも提供する必要がある。防災行政無線の整備状況と今後の対応は。

総務部長 防災無線に関わる子局や戸別受信機の整備はほぼ完了。今後は経年劣化や難聴対策、機器の更新を含めた整備計画の策定が必要。

問 戸別受信機の難聴地区以外での取り扱いはどうなっているのか。

総務部長 難聴地区での対応が基本であったが、情報伝達を確立す

るため、避難所及び保育所を含む公共施設51カ所に設置した。

問 災害時に情報の一元化は重要だが、避難所との伝達体制は。

総務部長 固定電話、公衆電話及び携帯電話、さらにインターネット回線、防災行政無線などで連絡。

問 過去の災害で、避難所間の情報伝達に活用できたか疑問。無線機の活用についてどう考えるのか。

総務部長 災害時の無線は有効と考える。防災行政無線の移動系無線機や車載無線機を配備し、携帯型無線機を避難所に設置して相互交信の体制を整備する。

問 25年度に行われる富津地区での総合防災訓練の概要は。

市長 住民参加の発災対応型訓練として、防災意識の高揚と地域防災力を高める目的がある。今年は富津小で津波・高潮ハザードマップを活用した津波避難訓練を計画している。

問 シナリオに基づき動く「劇場型訓練」がどこまで役立つか疑問。避難ルートの確認など、最寄り避難所までの実践訓練が有効では。

総務部長 各地区から避難所まで避難する計画を考えている。今後詳細は検討していく。

問 「健康で思いやりあるまちづくり」の施策を実現するために、高齢者の事故防止対策として具体

的な対応は。

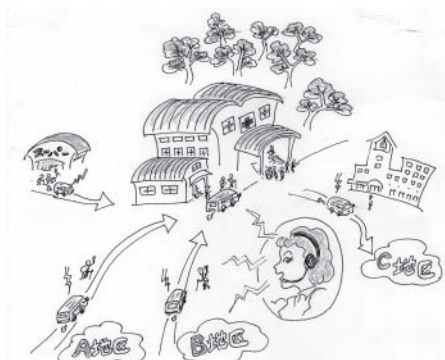
市長 警察や諸団体と協力のもと、老人クラブ定例会や出前講座等で交通安全教室を実施。身体機能の変化を踏まえた参加・体験・実践型の安全教室を開催し、これまでに以上に街頭啓発活動に努めたい。

問 高齢者が免許証を返納した場合の対応は。

市民部長 自主的返納は23年中が14人、24年中が27人。移動手段が不十分な人が利用できる公共交通の維持、確保は重要なこと。NPOや市民ボランティアとの協働による交通システムの可能性を研究していく。

問 障がい者福祉として家族に対し、負担を軽減する支援は。

健福部長 家族の就労支援や一時的な休息等で介護困難の場合、短期入所や日中一時支援がある。



住民の足となる理想的交通網の実現に向けて

地域主体の防災力の向上と充実



鈴木 幹雄
議員

問 地域防災計画の実効性ある見直しとは。

総務部長 千葉県の防災計画の見直しにより、津波対策に対応する計画を新たなものに変更。津波・高潮ハザードマップの活用と県の計画との整合性を図りながら修正を図っていく。

問 災害対策本部の設置場所は。
総務部長 現計画では富津市本庁舎3階の庁議室に設置する。また本庁舎にそれ相応の被害が発生した場合、代替機能を持つ消防防災センター内に設置していきたい。
問 津波避難時の避難誘導と安全確保は。

総務部長 津波避難時の避難誘導に当たる消防職、消防団員の安全の確保は、津波の到達予想時間前に避難するという取り決めがある。また市職員や自主防災組織についても津波到達時間を考慮し、まず身に危険を感じたら自分の命は自分で守ることを最優先とすること、地域防災計画修正時に明記し、周知を図っていきたい。さらに避難誘導のひとつとして電光掲示板と高性能スピーカーがセットの避難案内掲示板の導入を検討したい。
問 福祉避難所の設置指定は。



自助・共助・公助の新たな防災拠点となる消防防災センター

総務部長 当市では福祉避難所の指定はないが、市内福祉施設へ協力をお願いしながら福祉避難所の設置計画を今後進めていきたい。
問 津波・高潮ハザードマップの見方、活用方法は。
総務部長 日ごろから家族等で避難場所の確認や話し合いにより、適切な避難行動がとれるよう活用いただきたい。また出前講座を積極的に開催し、危険性の理解を深めたい。
問 自主防災組織の維持・強化は。
総務部長 少子高齢化の中で自主防災組織の役割は大きく、組織強化や人材確保は重要との認識の中で防災会に対して可能なかぎり助言していきたい。

国土強靱化・水産振興・冬季観光施設について



平野 政博
議員

問 国土強靱化計画について市の見解は。

市長 県や国の動向を注視した中で、安心して子育てできるまちづくりを進めていきたい。

問 強靱化計画ではインフラ整備に力を入れていく趣旨の項目もあるが、富津市の現状は。

建設部長 現在、橋梁の点検が完了し、橋梁寿命長期化修繕計画を策定中。

問 富津市内業者の公共事業の入札状況は。

総務部長 23年度における入札の受注比率は63%、24年度の受注比率は64%。

問 前年とほぼ変わらない状況なので、富津市の公共工事は市内業者100%に近づける状況を作ることを希望する。近年、東京湾のバカ貝の発育状況が芳しくないが、見解は。

市長 海底の土質状況・栄養分などさまざまなものと考えられ、水産総合研究センター等で調査しているが、原因はまだわからない状況。
問 東京電力富津火力発電所からの温排水による養殖の現状は。

経環部長 100トン水槽4槽でクルマエビの種苗を年間600万



富津岬の先端にそびえ立つ明治100年記念塔にイルミネーションを!!

匹、1トン及び2トン水槽でミルクイの種苗を4万個生産している。来年度も同様に生産する予定。
問 富津市には魅力的な観光資源がたくさんあるが、冬の特に平日の集客施設は。
市長 志駒のみみじロード、昨年からはマザー牧場のキラキラウィンターファーム、また今後は浅間山のメガソーラーの施設見学も集客のひとつになるかもしれない。
問 私から提案ですが、冬の特に平日の観光として、100年塔のイルミネーションはどうか。
経環部長 県の施設であり、電力や駐車場等の問題もあると思うが、検討する余地も多いと思うので、提案はお受けしたい。

施政方針及び市の活性化について



渡辺 務
議員

問 地域の特性と個性豊かなまちづくりの推進とは。

市長 躍動とにぎわい、やすらぎとふれあいの交差するまちを将来の都市像に掲げ、市の恵まれた資源と特性を生かし、実情に合った行政サービスを提供していく。

問 観光振興で地域の特性を生かした各種イベント開催とは。

経環部長 産業まつりやはかりめ祭り、生のりフェアなど。

問 地場産業の育成についての取り組みを伺う。

経環部長 プレミアム商品券への補助や中小企業資金融資制度やその融資に対する利子補給など。

問 浅間山砂利採取跡地の有効活用計画の中で、体験農場や植物工場などの施設誘致と観光拠点創出の構想があるが、それには市内の横の連携が必要となる。農業関連分野について政策面も含めた情報の共有が必要なのは。

経環部長 農業分野での計画が具体化した場合は、農業事務所と連携し、相談に乗る等の対応をしていく。
問 浅間山を観光拠点とするには産業活動自体に触れることを目的とした「産業観光」の視点が必要。東電富津火力発電所とメガソーラ



トンネルや道路の状況調査の必要性が高まっています。

ーを併せて安全で持続可能なエネルギー供給拠点としてピーアールしていくべきだと思いがいがか。
企財部長 地域づくりを進めるには、事業を行う企業側だけの論理だけではなく、地域住民を加えた中で計画を練り上げるべき。地域に密着した持続可能な事業とするための第一歩としたい。
問 高度経済成長時代に拡張された道路・橋梁などのインフラの多くが今後耐用年数を迎える。これらについての整備方針を伺う。
市長 橋梁に対しては、橋梁長寿命化修繕計画を策定中。トンネルや道路の路面性状調査も国の交付金及び臨時交付金を活用し、25年度完成に向けて取り組んでいく。

スポーツで観光振興、安全・安心の環境づくり



藤川 正美
議員

問 ランナーズインフォメーション研究所を知っているか。

経環部長 知らなかった。観光庁が良いコースを紹介し、新たな観光資源を創出するために平成24年11月に設立し、高橋尚子さんが所長。県内の認定コースは昭和の森と富津公園の2カ所だと知った。

問 スポーツ合宿の課題は。

教育部長 課題は3点。①宿泊施設の限界 ②宿泊施設の安定的・効率的な経営面での課題 ③地域との交流や市との一体感の醸成。

問 埋め立て面積が500㎡以上の場合、市の対応策は。

経環部長 500㎡以下は届け出る必要はないが、500㎡を超えそうな場合には、指導をしている。

問 埋め立てをする際、境界を明確化する責任は誰にあるのか。

経環部長 境界測量の責任は、埋め立てをする人にある。

問 富津市にはPM2.5の観測機があるが、設置に至った経緯は。

経環部長 平成22年、千葉県から話があり、富津中学校内に設置をお願いした。

問 今後、基準値を超えた時、市民への広報はあるのか。
経環部長 防災行政無線や安全・



富津公園は、ランナーズインフォメーション研究所の千葉県内初の認定コースになっています。

安心メールで周知する。
問 市内のアレルギー体質の児童・生徒数は。
教育長 食物アレルギーは、小学生は12校中11校で47人、中学生は5中学校・全校で30人。重篤なアレルギーの児童・生徒はいない。
問 社会福祉協議会の高齢者いきがい事業の現状は。
健福部長 平成23年度末の会員数は164人で60歳以上の対象者の入会率は1%未満。事業への依頼件数は529件、うち受託件数は488件、利用会員は54人で、23年度の実績は2080万3千円。
問 シルバー人材センターの設立の考えはあるのか。
健福部長 今後も検討したい。

有害鳥獣による被害防止対策について



朗 岩本 議員

問 鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、地域ぐるみでの被害防止対策は。

市長 今年度末の防護柵延長で1250カ所、323キロメートル余りに及ぶ防護柵を設置しているものの、個別の対策であることから管理面を含め、十分に効果が発揮されていない状況にある。そこで、地域集落ごとで話し合いを行い、集落単位など広範囲での設置を実施し、イノシシを寄せつけない環境づくりを推進する。

問 被害額がこの2、3年、高どまりになっている原因は。

経環部長 イノシシの個体数は増加する傾向にあり、被害防止対策が十分でないと推察さる。被害額については農業者の申告であることから、繰り返される被害に対し、申告しないケースや被害により耕作を取りやめた場合などが、高どまりの原因ではないかと考える。

問 獣害に負けない集落づくり事業の進捗は。

経環部長 今までは県の補助金を使い電気柵の設置を行ってきた。県の補助要綱は個別でできるという、やりやすいことから個別での対策を行っていたが、やはり地域

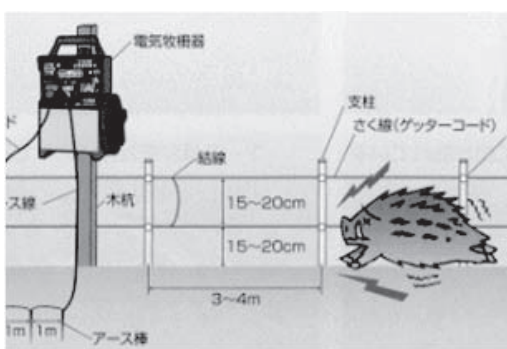
ぐるみでの必要性から国の補助金を活用して広い範囲での取り組みに切りかえていきたい。

問 イノシシ対策計画の中から被害対策地域の目標値と取り組みは。

経環部長 市としてもこの千葉県イノシシ対策計画にのっとり、対策を講じていきたいと考える。

問 地域ぐるみで行う対策をどのように指導するのか。

経環部長 地域ぐるみで行う対策として、電気柵も一つの方法かと思うが、イノシシについては例えば草が生えているところ、見通しが悪い所等に出没しやすい環境を地域ぐるみで改善する取り組みを推奨していきたいと考える。



地域ぐるみでの取り組みに切りかえています。

義務教育費の負担軽減と学童保育の拡充



和江 松原 議員

問 保護者の教育費の負担軽減をどのように考えているか。

教育長 必要な教材や体験等の費用がかかることも事実。教育水準の維持、確保について十分考慮するとともに、保護者負担への配慮もしている。

問 憲法第26条では、教育の機会均等、義務教育の無償化を掲げている。学校でかかる保護者負担金ほどのくらいか。

教育部長 年額、下表の通り。

問 全日本教職員組合が、教育費の補助について全国の自治体にアンケートを行った。給食費を補助している自治体は122あった。近隣市では、袖ヶ浦市が小学生には月額400円、中学生には550円補助を出している。富津市は今後、補助を出す考えはあるか。

教育部長 学校給食法では、施設設備、運営に関する費用は学校設置者の負担、その他の経費は保護者負担と規定。富津市では食料費のみ保護者負担。今後も保護者負担でお願いしたい。

問 富津市の学童保育は民設民営。県内の学童保育の運営形態は。

健福部長 平成24年4月時点で、公設公営は18市9町、359クラブ。公設民営は18市9町1村、405クラブ。民設民営は15市4町、151クラブ。

問 保護者の負担金は。

健福部長 県内を月額平均すると公設公営は7600円。公設民営は6800円。民設民営は10400円。県全体の平均は8267円。富津市は10000円から15000円、平均13000円。

問 市内の小学校は12校。竹岡、金谷、湊、天神山、環、関豊、吉野の7校には学童保育がない。市としてどのようにつくっていくのか。

健福部長 公設公営で拡充できればよいが、平成24年度からクラブ運営補助を拡充した。現行制度で継続していきたい。

富津市立小中学校における保護者負担金（年額）

学 年	小学校	中学校
1年生	62,822円	98,932円
2年生	62,060円	102,490円
3年生	63,146円	104,004円
4年生	66,279円	
5年生	68,454円	
6年生	86,442円	



副読本、教材費、校外学習、宿泊研修、修学旅行、各種保険、給食費、PTA会費の学校間単純平均額

企業誘致対策特別委員会報告

富津中央インターチェンジの東側に広がる浅間山砂利採取跡地でのメガソーラーによる土地有効活用についてその概要を報告します。

約200ヘクタールの跡地のうち北側のエリアの44ヘクタールを(株)グリーンパワーインベストメントが出力約35メガワット、一般家庭9900世帯分の年間電力使用量相当分を発電。

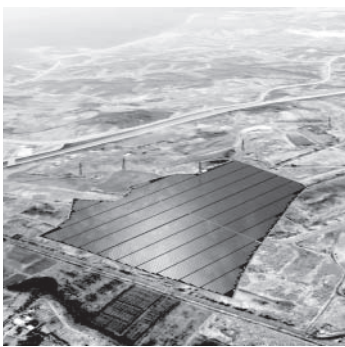


(株)グリーンパワーインベストメントのプロジェクト計画図

また、南側エリアでは(株)リサイクルワンを中心とする企業グループが同じく44ヘクタールの土地に出力約40メガワット、一般家庭1万1500世帯分相当の電力を発電する太陽光パネルを設置し、発電した電力を東京電力に売電するという事業計画が進められています。設備にかかる費用が総額200億円規模のプロジェクトで、南北合わせると関東地方では最大の

メガソーラー施設となる予定です。売電の売上規模は合計で30億円程度と見込まれています。

計画が先行する南側エリアは、平成25年4月に着工され、26年の8月頃には稼働する予定です。



(株)リサイクルワン等が出資する(株)富津ソーラーの事業計画図

この事業は民間が行うものですが、市には固定資産税収などの効果があります。さらに市南部地区の活性化の起爆剤として観光や農業生産などの面で、さらなる波及効果が望まれるところです。

今後の課題は、民間所有の土地が大部分を占める跡地で、市がどのように地域活性化策を具体化させていくかです。行政と民間と地域がうまく協調していくことで効果的なプロジェクトに発展するのではと期待しています。今後も引き続き市議会も特別委員会を通じて提案を続けていきます。

議会広報委員会報告

当市議会では、年4回(号外などを除く)定期発行している「議会だより」を議会広報委員会委員が主体となり紙面の構成や写真の掲載、編集作業を行っています。

議員自らが作業全般に携わる議会は珍しいため、たびたび他市の議会が行政視察に訪れます。

平成25年2月19日には、九州から佐賀市議会の議会広報広聴委員会(委員9人)が視察に訪れ、「議会だより」の編集や「議会ホームページ」の運用に関する意見交換を行いました。今後の議会運営の一助となれば幸いです。

平成17年以降に「議会だより」の編集に関する行政視察で、当市議会を訪れた他市の議会は次のとおりです。

- 千葉県木更津市議会
- 千葉県鴨川市議会
- 埼玉県深谷市議会
- 茨城県潮来市議会
- 栃木県下野市議会
- 群馬県みどり市議会
- 山梨県上野原市議会
- 山形県天童市議会
- 岐阜県各務原市議会
- 長野県安曇野市議会
- 佐賀県佐賀市議会

議会広報委員会で編集作業を行う際の注意点は、次のとおりです。

- ・市民の知りたい情報、議会の知らせたい情報を提供する。
- ・見やすい、読みやすい、分かりやすい内容とレイアウトを目指す。
- ・対談・取材形式の記事、議員個人の投稿は文責を明確にする。
- ・編集にあたっては人権や利害関係に十分に留意する。
- ・広報紙の記事内容について執行部(市職員)の確認を得る。

今後よりよい「議会だより」を市民の皆さんに提供し、他市の議会のお手本にもなれるよう創意工夫を重ねていきます。



佐賀市議会との意見交換の様子



3月3日に富津市総合社会体育館を主会場として第35回千葉県民マラソンが開催されました。参加ランナー4,667人が潮風を背に自己の記録に挑戦されました。



富津海岸「潮干狩り場」が3月16日にオープンしました。この日は好天にも恵まれ、多くの市内外のお客様で賑わいました。今年の開設期間は3/16(土)～9/8(日)です。



3月31日に富津スターレーンで「富津市民ボーリング大会」が開催され、参加者83人中優勝された浅田俊夫さんは4ゲーム合計で971点という圧巻のハイスコアでした。



3月7日ホテル静養園でJAきみつと富津市議会による共同勉強会を開催しました。富津市の農産物の現状と今後の展望を伺うなど、有意義な時間を過ごさせていただきました。



国際交流協会の青少年海外派遣事業で4人の学生が、当市の姉妹都市であるアメリカ合衆国カリフォルニア州カールスバッド市で一週間のホームステイをしてきました。



市民の安全・安心を守る新たな防災拠点として4月1日から運用を開始している「富津市消防防災センター」の開庁式が4月6日に開催。約70人の関係者にご列席いただきました。

ぜひ、議会傍聴に！

6月定例会日程

6月4日(火) 10時

開会

議案の上程

一般質問

一般質問

予備日

議案質疑

議案質疑

常任委員会

常任委員会

常任委員会

委員報告

議案審議

閉会

21日(金) 10時

18日(火)

17日(月)

14日(金)

13日(木)

12日(水)

11日(火)

10日(月)

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

9時30分

【編集後記】

平成25年度予算が決まりました。

この見出しで2ページにわたり予算審査の記事を掲載しました。

予算は市長が提案し、議会での議決(承認)によって成立します。

予算は、地方公共団体の一定期間における経済活動の全般の見積りであり、一定期間における収入と支出の予定金額を一定の形式で表示した見積書であるといわれています。そこには、地方自治体の政策の青写真が計数的に表示され、これによって施策の重点や方向性を知ることができます。

予算編成とその審査は、地方公共団体における政策形成の場であり、予算書はその結果としての公示書でもあります。

(岩本)